

授業改善推進プラン

小笠原村立小笠原中学校
校長 小野満 賢

(1) 今回の調査結果より

① 生活行動アンケートの調査結果より

生活行動のアンケート結果を分析してみると、「朝は、時刻を決めて起きている」「朝は、自分で起きている」「夜は、時刻を決めて寝ている」「学校で使う物は、自分で用意している」「学校に出かける前に忘れ物がないか確かめている」など、自分自身で生活のマネジメントができている生徒の方が良い結果になっている。また3学年とも、平均正答率が上位の生徒全員が「朝食をきちんと食べている」と回答しており、『早寝・早起き・朝ごはん』が推奨しているように、規則正しい生活を送ることの重要性が示されている。また、「学校では、先生に挨拶をしている」「家の人と決めた約束やきまりを守っている」などモラル意識が高い生徒の結果が良い傾向にある。そして「体育の授業のほかにも運動をしている」など運動の機会が多い生徒、「筆記用具などを用意してから、勉強している」「勉強にパソコンを利用している」という生徒の結果が良い傾向があり、学習環境を自ら整えるとともに、GIGA スクール構想で一人一台のタブレットを学習に活用する機会が増え、ICT ツールが自身の学びを補助したり広げたりしている傾向が見られる。また、「自分が住んでいる地域が好きである」ことに対して肯定的に答えている生徒や、「自分の力をできる限り伸ばしたいと思う」という前向きな意識をもつ生徒の結果が良い傾向にある。また「自分は、友だちから認められていると思う」「自分は、先生から認められていると思う」「自分は、家の人から認められていると思う」という生徒の正答率が高く、しかも学年が上がるにつれて顕著である。自己肯定感・自己有用感が醸成されていくことがいい結果につながるということが明らかとなった。

② 学習行動の基本質問結果より

学習行動に関する質問結果をみると「先生の話をしっかり聞いている」「きちんとノートをとっている」ということがしっかりできていると同時に、話し合いの場面で「積極的に発言すること」や、「相手の話をしっかり聞き取ること」や「自分なりの工夫をする」ことや「大事な部分はどこかを考えて勉強する」などの主体的な学び方に対して肯定的な生徒が良い結果を得る傾向がある。また「授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている」に対して肯定的な意見が多い教科ほど良い結果が出ている。教員と生徒の人間関係、学習内容、授業のスタイルなどにより質問のし易さは変わってくると考えられる。そのため、生徒が分かっているかを振り返る時間の設定、また授業外でも質問できるような関係・雰囲気づくりが求められる。特に、振り返りについては、記述内容も含めて丁寧に確認し、対応していく必要がある。

(2) 授業改善の取組について

令和3年度小笠原村教育委員会の学力向上の重点をふまえ、以下のように授業改善を図っていく。

① 小笠原中学校「授業ユニバーサルデザイン」と「振り返り」

「全ての生徒が、楽しく学び、『できた』『分かった』『身に付いた』と実感できる授業をつくる」こ

とを目指し、「年齢や性別、国籍、身体的な能力、障害の有無などにかかわらず、全ての人にとって分かりやすい」というユニバーサルデザインの視点を取り入れ、「全ての生徒にとって、参加しやすい学校・学級」「全ての生徒にとって分かりやすい授業」をつくるために次のような授業改善を全教科にわたって行う。

1 焦点化

生徒が授業に集中できるように、学習のねらいを精選する。また、達成感を得られるように、どのような活動を通してねらいを達成させるのか、明確にする。

2 視覚化・可視化

教員の説明や生徒の発表が全ての生徒にとって分かりやすいものになるように、ポイントを絞って視覚的に見せて伝える。口頭での説明に加えて板書や掲示、大型テレビやプロジェクター・スクリーンを用いて、生徒が視覚的に理解やイメージしやすいようにする。

・板書の位置、授業展開の統一化

「本時の目標」「話し合い活動」「まとめ」「応用問題」「ポイント」など、使用する語句を統一し、教室に貼り物を準拠する。「今、なにをしている授業」なのか、明示できるようにしていく。

・図やイラストを活用する。

文章や聴覚刺激だけ理解させようとせずに、図やイラストも活用し、その場面を理解できるようにしていく。

3 共有化

生徒がお互いの考えや意見を共有できるように、教え合いや学び合いの学習活動を設定する。授業中にペア学習やグループ学習を取り入れて、意見交換の機会を設けたり、短く時間を区切って生徒の集中が持続しやすい環境をつくったりする。

4 場の構造化

生徒が落ち着いて安心して授業に向かうことができるように、教室等の整理整頓を徹底する。教室内の物の置き場（定位置）を決めて、誰でも常に元の状態に戻せるようにして同じ環境を維持する。板書には、青・赤・緑色のチョークは使用を控え、白・黄・橙色のチョークを使用する。

5 刺激量の調整

学習に関係ない刺激に反応して注意がそれることのないように、教室内の視覚や聴覚を刺激するものを減らす。教室内や黒板の掲示物を精選したり、机や椅子を動かしたときの音など不必要な音の刺激を減らしたりして、学習活動に集中できるように配慮する。

6 時間の構造化

生徒が学習活動に見通しをもって主体的に取り組むことができるように、活動の順番や所要時間、終了時刻等の活動の流れを事前に提示する。板書の際には、説明する時間とノートに写す時間を別に確保する。

7 ルールの明確化

学校生活全般において、生徒が自分で気付いたり行動できるように、示し方を工夫したり共通化したりして、ルールを明確にする。毎日の学級や教科の提出物等については、提出する時間や場所等を共通化して明示する。

8 振り返り

学習内容の確実な定着のために、授業でのねらいを示すことや見直しをもたせることの重要性は言うまでも無いが、最後に「何が分かったのか、何が分からなかったのか」を生徒自らが思い返し、まとめたり補充したりすることが学習の定着に繋がっていく。日々の授業においては、個々の生徒の学習の取組状況を確認し、机間指導等により個に応じた指導・支援を行うとともに、授業のまとめの時間には、できる限り振り返りの時間を設定する。また単元の終わりには、自身の学びについてまとめる時間を確保し、質問がないか生徒に確認する。また、大きな学習のまとめのひとくくりとして定期考査があるが、テストに向けて計画的な学習を行わせるとともに、実施後には振り返りとして解説を行ったり、見直しに取り組ませたりして確実な理解につなげていく。

《振り返りの小笠原中学校スタンダード》

振り返りがしやすいノートづくりのために

- ・授業の板書については、ノートにまとめやすいように配置や色遣いなどを工夫する。
- ・ノートを写す時間と説明する時間を別に設定し、ノートに記述した内容について説明し、理解ができるように工夫する。
- ・板書を写すだけではなく、大事だと思われる要点には下線を引く、マーカー等で印を付けるなどの工夫をさせる。
- ・「分かったこと」などを「自分の言葉で」記述させる。
- ・「分かったこと」「できたこと」だけではなく、「よく分からなかったこと」「もっと調べたいこと」なども記しておくように勧めていく。

振り返りを有効に行い、価値あるものにするために

- ・各教科において、1単位時間の中で振り返りの時間を設定し、生徒が振り返る時間を確保する。
- ・授業では、前時の振り返りを効果的に使ったり、本時の学びが次時以降にどう繋がっていくかを予告したりするなど授業間のつながりを作っていく。
- ・生徒の振り返りの内容を吟味し、教師が自分の授業を振り返り、授業改善に役立てる。

定期考査後の振り返りについて

学習計画及び取組についての振り返り

- ・学習計画は無理のないものであったか
- ・学習は計画通り進められたか
- ・予定通りにいかなかった場合に、修正ができたか
- ・学習時間や内容は適切であったか。
- ・全ての教科について学習をすることができたか。
- ・一通りの学習の後に、練習問題をしたり、分からなかったところをやり直したりすることができたか。

学習内容についての振り返り

- ・分からなかった問題は分かるようになったか。
- ・途中で解くのをやめてしまった問題は最後まで解けるようになったか。

- ・同じ問題が次に出されたときにできるようになったか。
- ・間違っ覚えていたことはなかったか。
- ・似たような問題が出た場合に、解けるようになったか。
- ・同じ間違いをした友だちに、正しく説明ができるか。
- ・間違っ問題は どうして間違えたか説明ができるか。

② 家庭学習の充実に関する取組（学習の手引き）

取組を理解してもらうために年度初めに「学習の手引き」を配布する。保護者にも通知し、内容を確認していただく。また、教科ごとの学習の取組（家庭学習も含む）については、授業内に資料を用いて指導を行う。

【小笠原中学校としての取組】

ア) GW学習記録プログラムの活用

- ・設定した期間中の家庭学習の内容や家庭学習を行った時刻（時間）を記録し、日常の中での学習習慣の見直しや改善に役立てる。
- ・期間終了後、反省を記入し、保護者の方からコメントを記入していただく。

イ) 定期考査学習計画表の活用

- ・定期考査2週間前に、試験の範囲表を参考にしながら試験までの学習計画を立てる。
- ・GW学習記録プログラムと同様に学習や時間の記録を行い、計画通りに進んでいるか確認し、計画の見直し等を随時行う。
- ・期間終了後、反省を記入し、保護者の方からコメントを記入していただく。
- ・次回の定期考査前の学習計画を立てる際に活用する

ウ) 家庭学習ノート【1ページノート】の活用

- ・毎日ノート1ページ分の学習を自主的に行い、学習習慣を身に付ける。
- ・内容は自分で決めて行う。苦手な部分や理解が不十分な部分を学習する。
- ・家庭学習の取組について、何をすればいいのかわからない生徒には、漢字の練習や計算練習、英単語の練習を促す。

【保護者の方にお願ひすること】

ア) 家庭からも生徒に以下のことをお伝えください

- ・自ら学び、問題を解決する力が、これからの「生きる力」につながること。
- ・分からないものはそのままにせず、友だちや先生に聞くことが大事であること。
- ・短時間の学習でも、積み重ねると長い時間になり、多くのことができるようになること。
- ・机に向かう習慣をつけておくと、将来必要なときに、長い時間の学習が無理なくできるようになること。
- ・小・中学校で学ぶことは、今後学ぶことの大切な土台となる部分で、しっかりと固めておかなければならないこと。

イ) 家庭で話題にしてください

- ・家庭学習の時間帯や、おおよその時間について。
- ・家庭学習を自主的に進めるために必要なものについて。

ウ) 家庭にお願いしたいこと

- ・生徒の家庭学習への取組を見守り、励まし、褒めて意欲を向上させてください。
- ・生徒が学習する環境についての配慮をしてください。
- ・分からないことを気軽に家族に聞ける雰囲気作りをしてください。
- ・自分自身がどういう勉強をしてきたか、勉強が進まないときにはどんなことをしたのか等、経験に基づいてアドバイスをしてあげてください

最後に

全ての児童・生徒にとって「わかる」「できる」授業を実施するために、まず、基本として授業の「ねらい」と「まとめ」の板書を必ず行うこととする。また、ねらいの達成のために学習活動の流れを示して見通しをもたせ、今現在何の学習活動を行っているかを示す。また最後にわかったことを「まとめ」として明示することで、全ての生徒にとって「わかる」から「できる」授業の基本構成をつくっていく。また、「知りたい」「知ったことを伝えたい」「知ったことを使いたい」と思える事象や資料を用意し、主体的に学ばせるとともに、話し合い活動や、発表などのアウトプットの時間を必要に応じて設けるなどを通して、「わかる」から「できる」授業を実施し、併せて学習意欲を高めていく。

授業UDによって、学習意欲の高まった生徒が何をすればよいのか、家庭学習の手引きによって明確にわかるようにしていく。また、内容などについて、村学力調査をふまえて精選するようにしていく。小笠原村の授業改善の取組の重点授業 UD と振り返り指導の徹底により「わかる」から「できる」授業を推進していく。

単元ごとに必ず、学習内容を振り返る時間を設定する。その際に「わかったこと」「わからなかったこと」を明記させる。わからなかった内容については、個別に対応を行っていく。また、テストなどの学習内容についても振り返る機会を設定していく。本校では定期テストの他に単元テストや小テストで教科ごとに学習を振り返り、見直しをする機会を設けているが、それに向けての努力の仕方には個々に大きな差がある。学習内容をしっかりと定着させるためにも、教科ごとに復習の仕方等を家庭学習の手引きなどで指導し、その上で家庭学習を定着させていく。また実施したテストに関しては形成的評価として生徒の定着の様子を分析し、教科担当自身の授業を振り返り、改善していくきっかけとしていく。